

新『姫路市』誕生記念 企画展



# 考古資料でみる 新姫路市の歴史

姫路市埋蔵文化財センター

## ごあいさつ

姫路市は、平成18年3月27日をもって周辺の四町(家島町・香寺町・安富町・夢前町)と合併し、新しい市政を開始しました。この新『姫路市』が誕生し、市域が拡大したことにより、市内の遺跡数は、1300ヶ所を超えることとなりました。

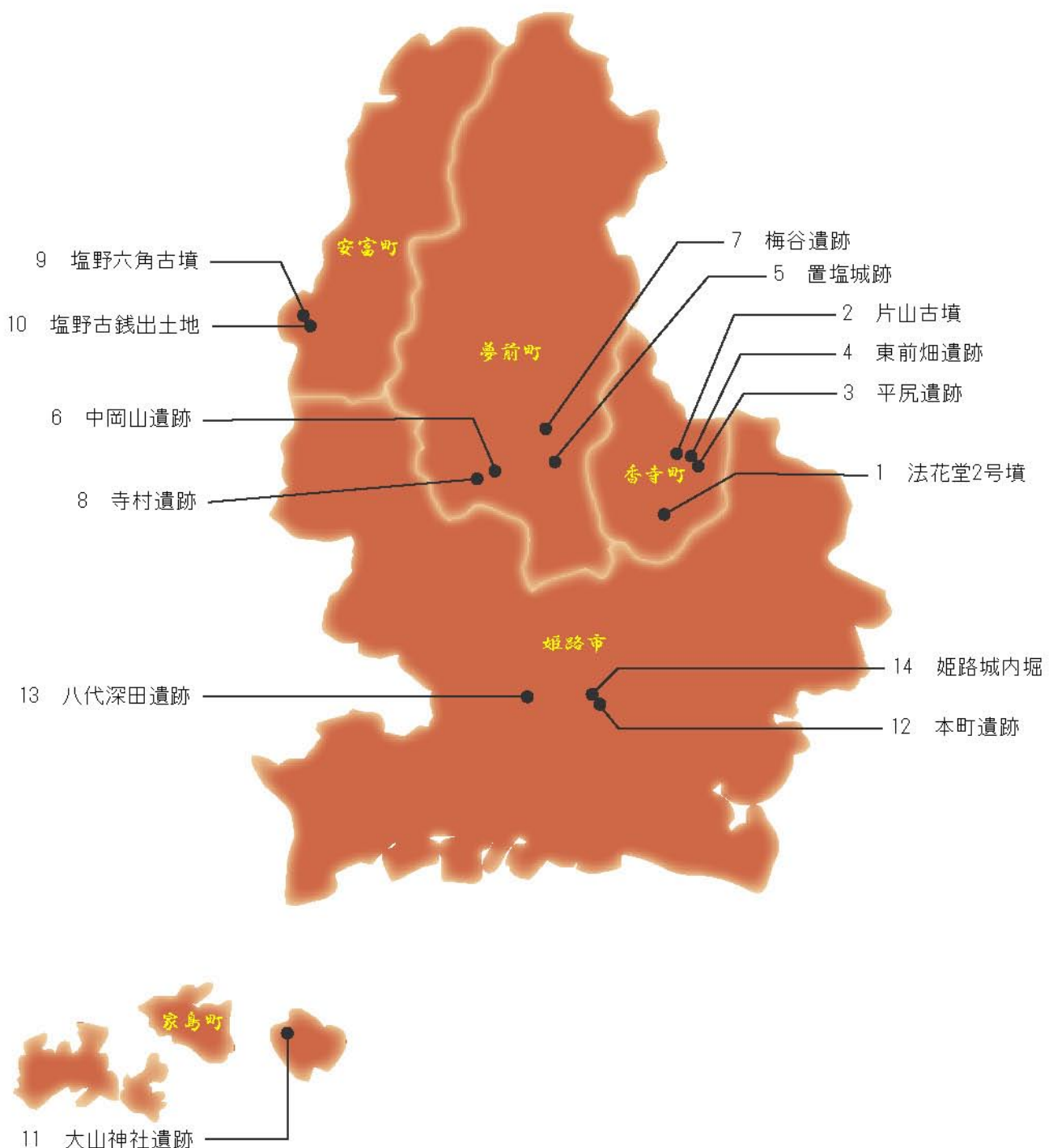
今回の展覧会では、旧四町に所在していた遺跡を中心として、置塩城跡・片山古墳・塩野六角古墳など、国・県指定史跡を含めた14ヶ所の遺跡と出土した考古資料を展示公開いたします。

これらの原始・古代を中心とした考古資料を通して姫路市の地域的特色や歴史を探っていただければ幸いです。

最後になりましたが、本企画展の開催にご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成18年7月16日

姫路市埋蔵文化財センター



# 1 法花堂2号墳

(姫路市指定史跡)



小札鉄鎧(県指定)



頸甲と肩甲(県指定)



三角板鉄鎧短甲(県指定)



主体部

香寺町田野の丘陵地には、数基からなる古墳群が知られています。昭和58(1983)年、個人が作業用通路を構築する際に古墳の主体部が偶然に発見されました。同年に行われた発掘調査の結果、主体部の長さ2.1m、幅50cm、深さ30cmの組合式の箱式石棺から短甲一式・鉄刀・鉄鎌・鉄鎧などが出土しました。古墳時代では貴重であった鉄製の武具や武器が多く出土し、青や短甲の形式からみて古墳時代中期の5世紀後半に築かれた古墳と考えられます。

また、青や短甲は、使用されている小札や三角板の遺存状態が良く、当時の武具の製造工程を知るうえでも貴重な資料といえます。出土遺物は一括で兵庫県指定の文化財となっています。

# 2 片山古墳

(兵庫県指定史跡)

標高81mの自然の尾根地形を利用して築かれた全長約30mの前方後円墳です。史跡に指定された当時は、古墳時代中期の5世紀に築かれた竪穴式石室をもつ古墳とされてきましたが、最近の考古学の研究成果によると、横穴式石室の主体部をもつ6世紀半ばに築造された古墳と考えられるようになりました。

市川中流域の首長系譜を考えるうえで重要な古墳といえます。また、当古墳を主体として、周辺には数基の古墳が分布しており、西方では、かつて鉄刀や須恵器を出土した片山西古墳が所在したようです。



皮袋形提瓶(市指定)



円筒埴輪(市指定)

### 3 平尻遺跡

平成3(1991)年から始まった香寺町岩部・溝口・土師ほか地区におけるほ場整備に伴う発掘調査では、縄文時代前期の土器片が多数出土しました。その後、平成5(1993)年に町道拡幅工事に伴い、再調査が行われました。その結果、住居跡などの明確な遺構は確認されませんでした。遺物包含層から100点を越す石鏃をはじめ、多数の石斧や爪型文・羽状縄文をもつ土器片が出土しました。また、石屑や石器未製品も出土していることから、縄文時代前期には当遺跡で人々が石器を製作していたことが判明しました。



調査地



石匙と石鏃

### 4 東前畑遺跡

市川の氾濫原を俯瞰できる台地の突端部に縄文時代から平安時代までの複合遺跡が広がっていることが確認されたのは、平成16(2004)年に行われた土師地区土地区画整理事業に伴う発掘調査の成果によります。

大型の掘方を持つ掘立柱建物跡や弥生時代から古墳時代にかけての竪穴式住居跡が確認されました。特に、滑石製模造品などが出土した遺構があり、古墳時代中期では、周辺において何らかの祭祀が執り行われていたことが判明しました。また、奈良時代の遺物や遺構が多く確認されているため、古代の神前郡を探ることができる重要な遺跡といえます。



滑石製模造品



滑石製模造品出土遺構

～旧夢前町城～

### 5 置塩城跡

(国指定史跡)

置塩城は、戦国時代に播磨守護赤松氏によって築かれた播磨地方最大の山城で、その居城として使用されました。永禄12(1569)年以降、織田信長の播磨侵攻が始まると赤松則房は織田方に味方し、置塩城で毛利方の攻撃を撃退するなどの戦功を上げています。天正8(1580)年、播磨を平定した羽柴秀吉は置塩城以下9城の破却を命じており、この段階で廃城になったものと考えられます。

置塩城は城山(標高370m)の山頂部一帯に築かれ、現状でも曲輪・城道・土塁・石垣等の遺構がよく残っています。平成10(1998)年に国史跡に指定され、平成13～17(2001～2005)年度にかけて発掘調査が行われました。調査の結果、山城としては多種多様で豊富な遺物が出土しています。主な遺物は、土師器、中国製磁器、備前焼、瓦質土器などの生活雑器があります。中世の置塩城を伝える最大の特徴は、伝二の丸跡を中心とする周囲の屋敷曲輪では、礎石建物や庭園が検出されるなど高い格式を有するものの、これらの配置が並立的で中世的様相を色濃く残していることがあげられます。その反面、城内最高所の伝本丸跡において検出された?列建物は、織豊系城郭の天守機能をもった建物に類似する象徴的な櫓であると評価されることなど近世城郭への過渡期を考える上で重要な成果を得ています。



置塩城跡遠景



礎石と庭園遺構



軒平瓦出土状況

## 6 中岡山遺跡



横穴式石室



双耳壺



竪穴式住居跡

遺跡は坪川右岸の山裾に位置します。平成8(1996)年に発掘調査が行われ、古墳1基と弥生時代の竪穴式住居跡が検出されました。竪穴式住居跡はベッド状遺構を持ち、周溝からは柱状片刃石斧が出土しました。古墳は削平されていたため墳形については不明ですが、単独の古墳で横穴式石室を有し、玄室には組合式石棺を構築していました。時期的には6世紀中頃～後半のものと考えられます。また、石室から平安時代の須恵器双耳壺が出土していることから、この時期に当古墳が二次的に利用されたことがうかがえます。

なお、夢前町域で同時期の遺物は、杉之内のアタゴ山から銅製経筒が2個体出土しています。

## 7 梅谷遺跡



石剣

梅谷遺跡は夢前川に面した狭隘な谷部に位置します。昭和38(1963)年に発見された石剣は、明確な莖をもつ粘板岩製の銅剣型石剣で、身の中央に鑄を有し断面は扁平な菱形を呈します。また、先端部が欠損していますが、身の基部は良く残存し、鑄を挟んで双孔が穿たれています。弥生時代中期のものと考えられます。

## 8 寺村遺跡



仏頭

寺村遺跡は坪川と菅生川の合流地点から北西の沖積地に位置します。昭和48(1973)年のほ場整備の際に多数の須恵器や瓦の破片が出土し、遺跡であることが確認されました。その時に出土した石造仏頭は地蔵菩薩の頭部の可能性があり、同様のものが兵庫県内で多可町崇福寺の石塔からも発見されています。

## 9 塩野六角古墳

(兵庫県指定史跡)

安富町塩野字岡ノ上に位置し、丘陵から南東へ延びる尾根上の標高150m付近に築かれています。

平成2(1990)年度に行われた発掘調査で外周を区画する石列が見つかりました。その結果、墳丘は直径約6m、一辺が約3.8mの六角形をしていたことが分かりました。

中央部は無袖の横穴式石室で、床面には棺を安置するための扁平な石が据えられていました。石室内からは副葬品として須恵器の長頸壺や杯などが出土しています。

古墳時代後期の7世紀中頃に築かれたもので、県内唯一の六角古墳として貴重なものです。



須恵器 長頸壺



須恵器 杯



墳丘と横穴式石室

## 10 塩野古銭出土地

昭和52(1977)年9月5日午後4時50分ごろ、安富町塩野のは場整備の工事現場で、備前焼の甕に入った多量の古銭が発見され、5万枚以上が回収されました。

古銭は中国の銭銘を有するものでした。古いものでは前漢の四銖半兩や新の貨泉が含まれますが、大半は皇宋通寶や元豐通寶など北宋時代のものでした。また、日本国内で銭銘を写して鑄造したものも含まれるようです。

このような銭の埋納は中世に多く行われ、県内でも宝塚市の堂坂遺跡などが有名です。塩野出土銭も南北朝から室町時代前半ごろに埋められたものと推定されます。



備前焼 甕



古銭一部

## 11 大山神社遺跡

～旧家島町域～

家島町男鹿島、標高210mの山頂部に立地しています。遺跡からは播磨平野が一望でき、遠く淡路島・四国を眺めることができます。こうした眺望の良さが遺跡を形成した要因の一つと考えられます。

ナイフ形石器が出土していることから、遺跡が旧石器時代の狩人たちにとって、狩猟に適した場所であったと考えられます。また弥生時代中期後半になると、高地性集落が営まれ、弥生土器や農具、狩猟具、漁撈具などが出土しています。中世には池跡などが見つかっており、瀬戸内海を往来した物資である、中国製の青磁碗や畿内産の瓦器碗などが出土しています。



家島諸島遠景



ナイフ形石器



龍泉窯系青磁碗

## 12 本町遺跡



遺構の状況

姫路城中曲輪東部に所在しています。古代瓦が多く表採できること、瓦や古代山陽道研究の見地から古代播磨国の政庁、播磨国府跡の最有力候補地とされ、中世の播磨国衙跡としても知られています。昭和56(1981)年の発掘調査によって、1辺1m前後の方形掘方を持つ大規模な掘立柱建物跡やそれに伴う塀跡を確認しました。出土品も大型の須恵器の皿や杯、硯や暗文を施す土師器の杯など、一般集落ではほとんどみられないものが多数出土しており、国府説の重要な根拠とされています。また、平成8(1996)年から実施した調査では、役人が身につけたベルト飾りである石帯も出土しました。



本町式軒丸瓦・軒平瓦

姫路城の北西に位置し、姫路平野の中央を南流する船場川の西岸中流域に所在しています。

遺跡は、河川によって形成された微高地と、その南側の低湿地にかけて広がっており、昭和52(1977)年に実施された中学校校舎建替に伴う発掘調査で、弥生時代中期を中心とする遺物が多量に出土しました。その中には、畿内の影響を受けたとみられる廉状文を施した土器や、東海地方で多く出土する円窓付壺形土器など特徴的なものがあり、当時播磨の人々が、広範囲にわたって活発に交流を行っていた様子がうかがえます。

## 13 八代深田遺跡



高杯



円窓付壺形土器



遺構の状況

## 14 姫路城内堀



瓦経出土状況

姫路城は今から約400年前池田輝政によって築かれ、その後も様々な歴史を刻み続けています。平成7(1995)年、内堀の浚渫工事に伴う発掘調査で極楽寺瓦経56点が発見されました。この瓦経は、江戸時代の寛政11(1799)年に香寺町の山中で発見され、当時の姫路藩主酒井忠道によって、拓本採取をはじめとする整理事業が行われたものです。拓本は約500枚ある瓦経の全容が知れること、願文などから経塚造営の時期や由来が詳細にわかるといった理由で、経塚研究の一級資料として注目を集めていましたが、実物の大半は行方不明となっていました。



瓦経(金光明経)(市指定)

新『姫路市』誕生記念 企画展 考古資料でみる新姫路市の歴史 展示品目録

番号	品名	員数	遺跡名	所蔵・保管
1	小孔鉄鑿衝角付膏	1	法花堂2号墳	姫路市教育委員会
2	三角板鉄鑿短甲	1	法花堂2号墳	姫路市教育委員会
3	頸甲	1	法花堂2号墳	姫路市教育委員会
4	膏甲	1	法花堂2号墳	姫路市教育委員会
5	円筒埴輪	2	片山古墳	姫路市教育委員会
6	須恵器 皮袋形提瓶	1	片山古墳	姫路市教育委員会
7	須恵器 壺	1	片山古墳	姫路市教育委員会
8	鉄刀	2	片山古墳	姫路市教育委員会
9	石鏃	20	平尻遺跡	姫路市教育委員会
10	石匙	1	平尻遺跡	姫路市教育委員会
11	打製石斧	1	平尻遺跡	姫路市教育委員会
12	磨石	1	平尻遺跡	姫路市教育委員会
13	縄文式土器	5	平尻遺跡	姫路市教育委員会
14	滑石製模造品 有孔円板	1	東前畑遺跡	姫路市教育委員会
15	滑石製模造品 剣形	5	東前畑遺跡	姫路市教育委員会
16	滑石製模造品 勾玉	1	東前畑遺跡	姫路市教育委員会
17	滑石製模造品 雲玉	1	東前畑遺跡	姫路市教育委員会
18	滑石製模造品 白玉	30	東前畑遺跡	姫路市教育委員会
19	滑石製模造品 白玉未製品	30	東前畑遺跡	姫路市教育委員会
20	軒丸瓦	1	本町遺跡	姫路市教育委員会
21	軒平瓦	1	本町遺跡	姫路市教育委員会
22	円面硯	1	本町遺跡	姫路市教育委員会
23	石帯 丸柄	1	本町遺跡	姫路市教育委員会
24	緑釉碗	1	本町遺跡	姫路市教育委員会
25	円窓付壺型土器	1	八代深田遺跡	姫路市教育委員会
26	弥生式土器 高杯	1	八代深田遺跡	姫路市教育委員会
27	鳥雲瓦	1	置塩城跡	姫路市教育委員会
28	軒丸瓦	1	置塩城跡	姫路市教育委員会
29	軒平瓦	1	置塩城跡	姫路市教育委員会
30	京都系土師器小皿	1	置塩城跡	姫路市教育委員会
31	耳皿	1	置塩城跡	姫路市教育委員会
32	青花磁器碗	1	置塩城跡	姫路市教育委員会
33	瀬戸美濃焼天目碗	1	置塩城跡	姫路市教育委員会
34	尖型土製品	2	置塩城跡	姫路市教育委員会
35	銅製灯明皿	1	置塩城跡	姫路市教育委員会
36	須恵器 双耳壺	1	中岡山遺跡	姫路市教育委員会
37	磨製石剣	1	梅谷遺跡	姫路市教育委員会
38	仏頭	1	寺村遺跡	姫路市教育委員会
39	須恵器 壺	1	塩野六角古墳	姫路市教育委員会
40	須恵器 杯	1	塩野六角古墳	姫路市教育委員会
41	舌錢	—	塩野古銭出土地	姫路市教育委員会
42	ナイフ形石器	16	大山神社遺跡	姫路市教育委員会
43	尖頭器	2	大山神社遺跡	姫路市教育委員会
44	石匙	2	大山神社遺跡	姫路市教育委員会
45	石鏃	10	大山神社遺跡	姫路市教育委員会
46	打製石庖丁	4	大山神社遺跡	姫路市教育委員会
47	磨製石斧	6	大山神社遺跡	姫路市教育委員会
48	弥生式土器	7	大山神社遺跡	姫路市教育委員会
49	青磁碗	1	大山神社遺跡	姫路市教育委員会
50	播磨極楽寺経塚瓦経	12	姫路城跡 内堀	姫路市教育委員会

凡 例

- 1 本書は平成18年7月16日(日)から平成19年1月21日(日)まで、姫路市埋蔵文化財センターで開催する企画展「考古資料でみる新姫路市の歴史」の展示解説として作成した。
- 2 今回の企画展は当センター職員が担当した。
- 3 この図録の表紙デザイン及び編集は堀本が行い、玉越綾子の助力を得た。

姫路市埋蔵文化財センター

Himeji City Archaeological Research Center

〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1  
 TEL (079)252-3950 / FAX (079)252-3952  
 URL <http://www.city.himeji.hyogo.jp/maibun-center/>  
 E-mail [maibun-center@city.himeji.hyogo.jp](mailto:maibun-center@city.himeji.hyogo.jp)